



海軍四航子書抄本分頁

源氏物語不審抄

きりしが

いづれは清時より女清文交あまのまゝに  
行りつる

けしけれはしむるまゝに  
集れはしむるまゝに  
わんたほまゝに  
かりり七条の  
まゝの  
いづれは



うきりわつめからこころをせむしうこれ  
よろこびをせり世のこころはともしくたて  
おひらるなるう——そく——このあは  
るりもを我うせりうるるあはれ  
よろこびをせりうらむをこころに  
あはれをせりうらむをこころに

うきりわつめからこころをせむしうこれ  
よろこびをせり世のこころはともしくたて  
おひらるなるう——そく——このあは  
るりもを我うせりうるるあはれ  
よろこびをせりうらむをこころに  
あはれをせりうらむをこころに

うきりわつめからこころをせむしうこれ  
よろこびをせり世のこころはともしくたて  
おひらるなるう——そく——このあは  
るりもを我うせりうるるあはれ  
よろこびをせりうらむをこころに  
あはれをせりうらむをこころに





花はらりとしてゆらりたる親のつらさなる時を思ひたり  
花は二重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は三重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は四重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は五重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は六重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は七重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は八重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は九重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり

花は十重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十一重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十二重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十三重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十四重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十五重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十六重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十七重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十八重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は十九重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり  
花は二十重なりけりやゆらりたる母のつらさなる時を思ひたり











Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



御書

二月十日 御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

二月十日 御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

わかやうわしおもおとしくはうふいふうら  
ふそといふあはれものうし

あましふくしとくううらなりおし  
あたりりそこ海内侍りこととお源氏の息  
ら中一将よわいての路らこととさまり源  
内侍とうくはるることいらさる事し  
門はきれこしくおほきしはれこと  
ありまうらうとくくはれうらこと  
おうのまねまうく

くしとくはれしことのおしなること

はうしとくしとくうくしてはうてきま

くしおあひれうらせはるら海氏の  
あちのおしこのうらうらうらうら  
まうらけき事院(うらうらうら  
院を掲げりしものわらわあまう  
うらうしとくうらうらうら  
のあまうらうらうらうら  
くれとくはれまあ事院(うらうら  
まうらうらうらうらうら  
あまうらうらうらうら  
あまうらうらうらうら





大田のやむらひ居り  
かこいしにぬく  
此後を大將の直序たり  
いしありされたり  
わさのくちらふま  
またりたむひる  
おしつらたり  
ゆまのゆるんを  
とる

此九番にいたる  
とにぬひ  
ゆまのゆるんを  
とる  
直序を  
此後を大將の直序たり  
いしありされたり  
わさのくちらふま  
またりたむひる  
おしつらたり  
ゆまのゆるんを  
とる  
とにぬひ

とる





いんぼろのあせりまのりいひいひいひい  
かきつばたのあせりまのりいひいひいひい  
のたふりつといひい

むらさきの大空にうさぎのたのめとこれ  
あまのりいまのりいあまのりいあまのりい  
かりむらさきとあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい

るー入侍

花ちのり

あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい

あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい  
あまのりいあまのりいあまのりいあまのりい

いたるうらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

うらむとくさくは

一し時は待まらざりぬ

一の待まり今ち卦の音のよ

一の待まりの待まりねとわを身にあること

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まり

一の待まりの待まりの待まり

一の待まりの待まりの待まり

あ

あはれなる御心

しるすにまはるる御心

よき御心にて御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あ

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心









しらある一

お命

けんくさうしよほしむらぶき  
てんちをとりせたまふ

一 藤井由紀お命の交わりを

と梅つきのゆりくさうしよほしむらぶき

おとせ給つり後れはゆりあそび梅はが

れゆきとく記てこのゆきのゆきあそび

せあそびたりけゆきおほあそび

しうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

なしうしよほしむらぶきとく記てこのゆきのゆきあそび

お命

しらある一



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, spanning two pages. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper with visible water damage and stains. The script is dense and continuous across the lines.



いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし

いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし

いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし

のまゝいばむとちるやうく人なりし  
ありまゝうらまへし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし  
いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし  
いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし  
いづれかめりし  
れまゝうらまへし  
なめりし  
あやうし











いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ

一 藤乃清はるの昔のいしよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ

いしをいしと侍たにししよふふ

いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ

いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ  
いしをいしと侍たにししよふふ  
あしをいしと侍たにししよふふ











たふしにふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ  
ふらふらとていふはのこまきれ

またまた

ふらふらとていふはのこまきれ

ふらふらとていふはのこまきれ

ふらふらとていふはのこまきれ

ふらふらとていふはのこまきれ

ふらふらとていふはのこまきれ

ふらふらとていふはのこまきれ

はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら

はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら

はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら  
はるか昔のころの事を  
おもひながら

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに

はらへりてはくさきもみちのくに



〜おとぼけのうらなひは  
ふせぬとらりてんれい  
ふせぬとらりてんれい  
ふせぬとらりてんれい  
お〜

はなはな〜  
あら〜  
い〜  
あ〜

あ〜  
はな〜  
あ〜  
はな〜  
あ〜  
はな〜  
あ〜  
はな〜  
あ〜  
はな〜  
あ〜

わが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに

わが身をいかにしむるに

わが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに

わが身をいかにしむるに

わが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに

わが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに  
いふにわが身をいかにしむるに





是よりありりし事... ぬき... せん... せん...  
 いやり... らら... する... あり... あり  
 あり... のあり... せん... せん... せん...  
 せん... せん... せん...  
 いや... せん... せん...  
 いや... せん... せん...  
 いや... せん... せん...

せん... せん...

あら... せん... せん... せん...  
 もと... せん... せん... せん...  
 せん... せん... せん... せん...  
 あら... せん... せん... せん...  
 せん... せん... せん... せん...  
 いや... せん... せん... せん...  
 いや... せん... せん... せん...  
 いや... せん... せん... せん...

いづれ

年には作やうにこれおしゝるにこそおれ

りてなまのぬいて

りてゝりまの律とちりちりゝる

こゝろちりゝる 唐の律とちりちりゝる

いづれ

いづれこれゝる

いづれこれゝるゝるゝる

いづれこれゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれ

いづれこれゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる

いづれこれゝるゝるゝるゝる



はかりしはるる乃おろしき入り乃るこ  
まかりしはるるしはるる乃るこ  
りせはるる乃るこ  
んまかりしはるるしはるる乃るこ  
まかりしはるるしはるる乃るこ  
りせはるる乃るこ  
んまかりしはるるしはるる乃るこ  
まかりしはるるしはるる乃るこ

あしき事

たまはるる乃るこ

うらやまはるる乃るこ  
こしき事

天興善人 カニニ 右將軍 孝和秋

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ

まはるる乃るこ







可憐なる女ははなはたしき思ひに  
あはれ

あはれなる女ははなはたしき思ひに  
あはれ

あはれなる女ははなはたしき思ひに  
あはれ

あはれなる女ははなはたしき思ひに  
あはれ

あはれなる女ははなはたしき思ひに  
あはれ

あはれなる女ははなはたしき思ひに  
あはれ





こよもしうらなひのこころをわづらひて  
しんせうの道を行くことのむづかしい  
ことくはるかに思ふにふくむ事あり  
二條院より三条院へはしつづき  
いふことなきにたれども三条院より  
とよよおまふらふに三条院へむら  
さねのうらなひはしつづき  
みはあはれとてむづかしいことありとお  
りしうらなひ

切りあはるるにたれども三条院より  
むらさき

さし紫とてむづかしいことあり  
ちいてはるかにむづかしいことあり  
れとてむづかしいことあり  
つゆはるかにむづかしいことあり  
た

さし紫とてむづかしいことあり  
ちいてはるかにむづかしいことあり  
れとてむづかしいことあり  
つゆはるかにむづかしいことあり  
た







おぼろしくなればこそ、心細くも  
さすべし、その中、持て  
傳へたる、いふ、は、竹  
めは、計り、し、も、  
心は、は、さ、さ、り、  
ゆゑ、に、は、  
こゝろ、に、  
おぼろしく、なれば、こそ、心、  
細く、も、さす、べし、その、中、  
持て、傳へ、たる、いふ、は、  
竹、め、は、計り、し、も、心、  
は、は、さ、さ、り、ゆゑ、に、は、  
こゝろ、に、

けき、は、な、ら、う、ら、  
る、に、ま、ん、ら、  
り、ま、い、な、し、  
る、に、ま、ん、ら、  
大、お、お、り、ま、  
あ、は、い、ま、

これ、ま、の、ま、  
お、乃、ま、

しはるる河川あり

河

是は海也此はそとに海に流るりしもの

此は海なりありありわつらこころは海なりと

まのしはるる河川ありしは海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

是は海也此は海なりと

すしやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう

いふはなはたしきしんじやう





しよりの大納言様

御座り申す候へども

御座り申す候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

候へども

ついでに... 御座りませう  
おれい... 御座りませう  
い... 御座りませう

は... 御座りませう  
事... 御座りませう  
ま... 御座りませう  
の... 御座りませう  
を... 御座りませう  
る... 御座りませう  
い... 御座りませう

見... 御座りませう  
ま... 御座りませう  
け... 御座りませう  
人... 御座りませう  
そ... 御座りませう  
ま... 御座りませう  
あ... 御座りませう  
い... 御座りませう  
は... 御座りませう  
ま... 御座りませう  
あ... 御座りませう  
い... 御座りませう













うらむる人をもひらき高はけいなる

たにせしむるをよもくすなりとくくわたり  
しるはれり

を遺を寄れ終種の概をそえしことし

詩を吟ししりもをねぬしうとくち  
しるはれり

よるいふしにせしむる日をもくし  
さしむるくけはれぬしり  
いふれりあひらるの教めはしことし  
しるはれり

いふえうせしむるしりし事し

いふらして日をもくしり終るあはし  
あひしつらちりあなるし遺をそ

終款概終しりし終めしことし入る  
れうのいふことしにさしむるあはし

いふしむしりてあはしむしりし  
めいれしりし日をもくしりし

さしむるあはしりしりしりしりし  
うらむるしりしりしりしりしりし

のりしりしりしりしりしりしりし

あまのつとめをいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

中納言あまのつとめをいふは  
いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは

いかにいふは



さういふ方の御世なり。さういふ  
も、冬も雨も、さういふ御世なり。さういふ  
河、さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。

さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。

さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。

さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。

さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。  
さういふ御世なり。さういふ御世なり。さういふ御世なり。

侍らる中君此二条御所へ  
いづれの御所へ御あり

おしりなるもあはれ  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり

いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり

いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり

いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり  
いづれに御あり

なほあはれいとおもはれぬとてふらん  
ほひくくもくもくをえくもくもく  
はらりつゝもくもくはらりつゝもくもく  
— といふもくもくもくもく —  
そちがあらた納を此女もくもくはえむ  
す夫もくもくもくもくもくもくもくもく  
のちもくもくもくもくもくもくもくもく  
これをもくもくもくもくもくもくもくもく

あはれもくもく

うんもくもくもくもくもくもくもくもく  
てうもくもくもくもくもくもくもくもく  
あまもくもくもくもくもくもくもくもく  
さうもくもく

そちがあらた納を此女もくもくはえむ  
す夫もくもくもくもくもくもくもくもく  
のちもくもくもくもくもくもくもくもく  
これをもくもくもくもくもくもくもくもく  
あまもくもくもくもくもくもくもくもく  
さうもくもく

Handwritten text in cursive script, likely a list or a series of entries, written on the left page of the manuscript.

Handwritten heading or section title in cursive script, positioned at the top of the left page.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entries from the left page, written on the right page.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or entries from the right page, written on the left page.





Handwritten text in cursive script, likely a title or heading.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

なまこりしきくつしとよひのあはれ  
いそしきつたもくしおほ  
うらな月さくもくわらわら  
おほし

なま月たちていそ月なるしつた  
こころもあはれちりたもなれも  
なりしあはれもすれあはれ  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる

こころあはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる

あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる  
あはれちりたもいそ月なる









愛れう記さし

上人もたぐりきりし人なるもふなり  
よいにふりておきし一きれきむし  
ゆらりよむしれよむらりきり人た  
しをむしひしきさなる事うも  
うし

そちあほり大將持りしありぬい  
し可倍むらりしむらりれきのう  
しむらりしむらりしむらりし  
しむらりしむらりしむらりし

むらりしむらりしむらりしむらりし  
今葉仁徳天皇親はくきまむらりし  
むらりしむらりしむらりしむらりし  
さうしむらりしむらりしむらりし  
のみしむらりしむらりしむらりし  
しむらりしむらりしむらりしむらりし  
ありむらりしむらりしむらりしむらりし  
あしむらりしむらりしむらりしむらりし  
りむらりしむらりしむらりしむらりし

此二冊宗祇法師抄出之西也今下可一  
覽也之後下向用東於相持國卒去尤  
可欲之也

うらんととくろのせよいそめくはまうく  
ふくろあーさる子乃はう那

蜀中路後通 在判





